

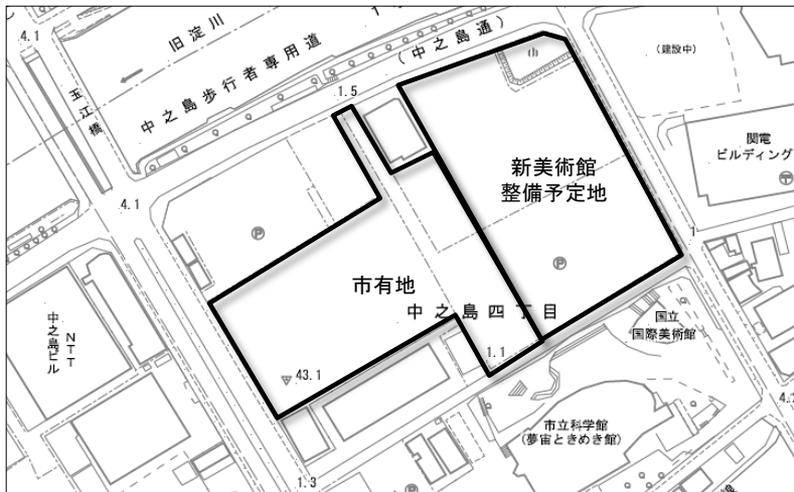
中之島4丁目 新しい美術館の整備について

新しい美術館のコンセプト

- 佐伯祐三や吉原治良に代表される大阪が育んだ作家の作品を中心とした第一級のコレクションを活かし、国内トップクラスのミュージアムをめざす。
- 「大阪と世界の近現代美術」をテーマとしたミュージアムとして、市立美術館や東洋陶磁美術館にはない、新たな魅力を創造する。
- 歴史的にも文化的にも豊かな蓄積をもつ中之島を拠点として、文化の振興や都市の魅力向上に貢献する。
- 民間の知恵を最大限活用しながら、顧客目線を重視し利用者サービスに優れたミュージアムとする。

整備予定地

施設整備の概要（案） 「新美術館整備方針」（平成26年度9月策定）より抜粋



項目		備考
【延床面積】	15,000m²	-
内訳	コレクション展示室	2,200m ² 日本近代/西洋近代/デザイン/現代/テーマ展示 (うち500㎡は企画展示室としても利用可能)
	企画展示室	1,200m ² 大型の巡回展にも対応できる面積を確保 (1,200㎡もしくは1,700㎡での利用が可能)
	コミュニケーション	2,100m ² パッサージュ、講堂、ワークショップ室等の オープンエリア
	保存・研究	2,500m ² 収蔵庫、一時保管庫、調査研究室等
	管理・共用	7,000m ² 管理部分（事務室、機械室、倉庫等） 共用部分（展示ホール、廊下、階段等）

（駐車場及びサービス施設は含まず）

整備手法・スケジュール

- 施設整備は公共事業で実施した上で、学芸部門をのぞく美術館やサービス施設の運営について、PFI事業で実施
- 2016年度から基本設計業務に着手し、2021年度の開館をめざす